

令和6年度自己評価結果公表シート

学校法人住吉清水学園 英明幼稚園住之江

1、 園の教育目標	
『 三つ子の魂百まで 』 「人を育てるのは人」を基本姿勢に、恵まれた教育環境の中で、子どもたちのすぐれた小さな成長の芽を早く見逃さずに伸ばし、才能を磨き、豊かな心、意欲、態度を培う。	
教育目標	「明るく、たくましく、辛抱強い子どもを育てる」 自然を愛し、美しいものに感動する心を育てる 他人を思いやる心を育てる ありがとうを言える素直な心や、感謝の心を育てる 豊かな精神と丈夫な身体を育てる 基本的な生活習慣を身につける

2、 評価項目の達成及び取り組み状況	
評価項目	取組状況
情報共有と連携を通して組織的に取り組む	情報共有のために、朝礼や定例の職員会議、学年会議を行い、教職員が同じ方向性を持って子どもにかかわれるよう努めた。また、園長と各学年のチーフが集まる推進会議も実施し、園全体として課題を共有しながら解決に向けた方針を検討した。さらに、職員研修を取り入れ、日々の保育で直面する課題に対して多角的に考え、連携して取り組んだ。これらはこれまでも継続して実施してきたが、令和6年度は特に職員同士のコミュニケーションを大切にし、意見交換や理解を深める場として充実させることを意識した。
教育内容の充実	◎教育内容の質を高める 子どもたちが園での活動を通して自己肯定感を高め、小学校生活への期待や意欲を持てるよう、日々の遊びや活動を工夫した。ことばや表現活動を通して、子どもが自分の気持ちを素直に伝える力を育むことを意識した。 ◎表現活動の充実 日々の保育や行事を、子どもたちだけでなく職員も一緒に楽しむことを大切にした。活動や行事を楽しみながら取り組む中で、子どもたちは前向きに挑戦する力や表現力を自然に高めることができた。 ◎課外保育の充実 体験活動を通して子どもたちの興味・関心を広げ、挑戦心や主体性を育てた。また、課外での経験を園での活動にも生かし、感謝や協力の心を育む場とした。
健康管理	◎教職員および園児の健康管理 日常的な健康管理意識を高め、職員一人ひとりが自身の体調管理に努めるとともに、園児の健康状態を細かく観察し、早期対応を行った。職員間で情報を共有し、安心して保育できる環境づくりを心がけた。 ◎熱中症予防 熱中症指数を日々確認し、その状況に応じた行動基準を職員間で共有した。子どもたちが安全に快適に活動できるよう、保育の進め方や休憩・水分補給のタイミングなどを工夫した。
防災・防犯対策	◎避難訓練の実施 避難訓練は毎月実施し、予告なし訓練も取り入れることで、子どもたちと職員が突然の災害に冷静に対応できる力を養った。また、地震・津波など複合的な場面設定を行い、状況に応じた判断力や協力体制を身につけられるよう努めた。 ◎職員間の連携と情報伝達 災害時や不審者対応に備え、職員間で役割分担や情報伝達の手順を確認し、迅速に保護者へ連絡ができる体制を整えた。 ◎防犯対策 送迎時には男性職員を門番として配置し、加えて防犯カメラを設置して常時記録することで、園全体の安全を確保した。職員間で日常の安全点検や確認を行い、防犯意識の定着に努めた。

3、 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果
令和6年度は、令和5年度の活気ある園の雰囲気さをさらに充実させ、子どもたちが安心して学び・遊べる環境づくりに取り組んだ。日々の保育や行事において、子どもたちが前向きに挑戦し、表現する楽しさや達成感を味わえるよう工夫したことで、自己肯定感の育ちを支えた。また、年度当初に設定したゴール（小学校生活への期待、素直な言葉かけ、前向きな挑戦、感謝の心）を意識した教育活動を展開し、子どもたちがそれぞれの成長を実感できるよう取り組んだ。 さらに、安全管理や防犯対策については、避難訓練や情報共有体制を強化し、職員間の連携を意識した実践を行った。 今後も、子どもたちの自己肯定感を高めつつ、安心・安全な園環境の維持と学びの充実を継続していく。

4、 今後取り組むべき課題	
課 題	具体的な取り組み方法
教育内容の充実	教職員が楽しみながら保育に取り組むことで、コミュニケーションが豊かになり、多くのアイデアが生まれる。そのアイデアを実践できるよう、「できないこと」を探すのではなく、「どうすればできるようになるか」を考え、常に子どもたちにとって大切なことと結び付けながら準備を進める。
教職員や子どもたちの自己肯定感をあげる	教職員も子どもも、笑顔や挨拶を大切にすることで、日々の関わりの中で安心感や信頼感を育む。目の前で起こる出来事を前向きに捉え、してほしいことを具体的に伝える言葉かけを行うことで、自己肯定感を高め、互いに認め合う環境をつくる。
言葉を大切にする	言葉の意味を正しく理解し、適切に使えるよう指導するとともに、子どもたちが素直な気持ちで相手に言葉がけできるよう日々の保育や活動の中で言葉の使い方をサポートする。その結果、子ども同士や教職員とのコミュニケーションが円滑になり、安心して自己表現できる環境を育む。
安全管理	防災・安全意識を高め、繰り返しの訓練を通して職員が迅速かつ適切に行動できる力を養う。必要に応じて安全管理計画を見直し、常により安全な環境を整える。 また、訓練や日常の保育を通して、教職員が子どもたちの安全を確実に守れる体制を強化し、子どもたちが安心して活動できる環境づくりを推進する。
健康管理	教職員と園児の健康管理に取り組み、一人ひとりが自分自身の健康管理意識を高めるようサポートする。 感染症や体調不良の予防対策を徹底し、職員間で情報共有を行うことで、安心して保育ができる環境を整える。また、熱中症予防として熱中症指数を確認し、状況に応じて水分補給や休息を適切にとるほか、気候の変動に応じて行事の時期や実施方法を見直すなど、子どもたちが安全かつ快適に活動できる体制を維持する。

5、 財務状況
公認会計士の監査により、適正に運営されていると認められている。